

航空宇宙産業セミナー趣意書

平成 20 年 12 月  
航空システム研究  
炭田潤一郎

航空宇宙産業参入を希望する中小企業ガイダンスの実施

日本の航空宇宙産業では、その規模が自動車の比ではないものの、最近若干ながら上向いていることと、今年 4 月の MRJ 開発開始を始め他にも新機種開発が目白押しということもあり、また宇宙関連では JAXA 主導によるいわゆる隙間衛星事業も流布してきて、昨今、全国各地における中小の企業の当該産業参入意向が強まっている傾向にあるといえる。

本年 8 月、11 月に横浜や名古屋で開催された航空宇宙展等でもその動きに特に配慮された催しが開催された。直接参加したイベントでも参加者の熱気にあふれるものが感じられたし、全体としての反響も大なるものがあったと聞いている。日本の航空宇宙産業にとっては開発機会を求めることと共に、その裾野を広げていくことが次世代における一大飛躍をもたらすものになることから、ここでは特にその後者の重要性を強調した提案をしたい。

上述の当該産業への参入を促す動きは単発で終わることなく、継続的に行って時に応じた対応をとる必要性があり、ムードではなく正確な認識による行動が求められる。そのためにはいろいろな角度からガイダンスを行っていくことが求められると考えている。航空宇宙産業は波及効果を持てるほどの高水準であることと共に、日本の産業規模が未だ極めて小さいこと、大きな粗密の流れがあること等による新規参入の困難さを持っている。適切なガイダンスが必須になる所以である。

そこで、数人の有識者による定期的なガイダンスの実施を必要に応じ、要請に応じて行うことを検討していきたい。ここでの有識者は、航空、宇宙でのプロジェクトを構造、装備システム設計や製造、品質管理等の背景から経験した者から構成し、実体を伝え得て、相談者との気楽なやり取りができるよう配慮する。

航空宇宙産業への参入は一通りの覚悟でできるものではない。戦後の歴史を通した日本企業の現状がそれを物語っている。中小の企業の方々の熱意を継続的に持続していただける環境を整えていくことと、そのための熱意がともに必要となる。そしてそれが継続して、次世代の日本及びアジア圏に大いなる当該産業発展が訪れてくれるよう期待していきたい。

以上